



個人でできるエラー対策

—金沢医科大学病院 医療安全職員研修会 河野龍太郎先生の講義より抜粋—

平成24年3月9日、金沢医科大学病院の医療安全研修会で紹介された「個人でできるエラー対策」です。職員全員がこの対策が実行することが、安全な医療の提供に繋がります。

1. まず、あいさつ

挨拶は、コミュニケーションの基本。チームとして働く職員同士、挨拶をしましょう。

2. 使ったら元に戻す

元の場所に整理して戻すと、次の作業をする時の失敗が減り、紛失も防止できます。

3. 手順からの逸脱は極めて危険

標準となる手順や緊急時（トラブル）対応の手順を守れば、安全が保証されます。

ルール逸脱が大きな事故に繋がります。「**ルールを守るものは、ルールに守られる**」

4. 指差呼称

電子カルテの患者選択、薬剤投与、ルート確認時など、**確認すべきものを指で指さし、声に出して確認することで、エラーを発見できます。**

5. おかしいと思ったらストップ

「おかしいな?」「いつもと違う・・・」と感じた時は、業務を中断し確認をしましょう。

6. 分からないことはやるな

安全のために「**分からないことを分からない**」と**勇気を持って言う態度**＝「**職業的正直**」

7. なぜ、なぜ、と考えよ

「手順だけ守れば良い」でなく、「何故、こうなったのか?」や「必要性」を考える事が大切＝**Know How教育から、Know Why教育へ**

8. 記憶（キオク）より記録（キロク）

記憶は時間がたつと忘れてしまう→「メモ」を取ったり、「作業中断」を表示する。

9. 先輩に影響されずにしっかりやれ

良い先輩は見習い、不安全な作業をする先輩には影響されないようにしましょう。

10. 自己管理

ベストな体調管理（深酒や睡眠不足の回避）と自分の感覚感度の理解（加齢による変化）

11. 仕事のトリアージ

「優先すべき業務は何か?」を考え行動する。

12. 人の失敗から学べ

インシデントレポートを、自分の職場に置き換えて考える事が大切です。

回 覧									

* 医療安全通信は、各部署で回覧サインをし、保管をお願いいたします。